

平成 25 年 度 実 装 活 動 報 告 書

実装支援プログラム（成果統合型）

実装プロジェクト

「国際基準の安全な学校・地域づくりに向けた協働活動支援」

(Collaborative Activity Support for Safe School and Community Based on International Standards)

平成 26 年 3 月 31 日

実装代表者 山本 俊哉

(Toshiya YAMAMOTO)

所属 役職

一般社団法人子ども安全まちづくりパートナーズ・代表理事

(Community Design Partners for Children's Safety / Representative Director)

明治大学理工学部・教授

(Meiji University, Faculty of Science and Technology / Professor)

目次

1	実装目標	2
1-1	実装活動の名称	2
1-2	プロジェクト終了時の達成目標	2
2	当該年度の実装活動	4
2-1	全体計画	4
2-2	当該年度（平成 25 年度）における実装活動	4
	（1）当該年度の実装活動の概要	4
	（2）当該年度の実装活動の具体的内容	5
3	実装活動の推進体制	10
3-1	実装活動の推進体制図	10
3-2	実装活動実施者、協力者	11
4	当該年度における実装活動の一覧	14
4-1	実装活動の実績一覧	14
	（1）実装に向けた研修・ワークショップ・アンケートの試行	14
	（2）実装に向けたヒアリング・現地視察等	16
4-2	成果発信・広報活動等一覧	17
	（1）主催イベント	17
	（2）招聘等によるイベント	17
	（3）運営ウェブサイト	19
	（4）書籍、DVD など発行物	19
	（5）メディア掲載等	19
	（6）その他	20
	（7）学術研究発表	20
	（8）受賞等	22
	（9）特許出願	22
	（10）その他特記事項	22

1 実装目標

1-1 実装活動の名称

実装プロジェクト名：「国際基準の安全な学校・地域づくりに向けた協働活動支援」
(Collaborative Activity Support for Safe School and Community Based on International Standards)
実装代表者：山本俊哉
(一般社団法人子ども安全まちづくりパートナーズ・代表理事／明治大学理工学部・教授)
実装活動期間：平成 25 年 5 月 7 日 から 平成 28 年 3 月 31 日 まで (35 ヶ月間)

1-2 プロジェクト終了時の達成目標

本プロジェクト終了時には、旧山本 PJ を中核に、旧山中 PJ と旧藤田 PJ で得られた研究開発成果を統合・集約化し、SC (セーフコミュニティ)・ISS (インターナショナル・セーフスクール) の認証に必要な「根拠に基づいたプログラム」、「事故・暴力等による外傷の発生頻度とその原因を記録するプログラム」および「プログラム、そのプロセス、変化による影響を評価する基準または方法」の作成・実行の支援プログラムとして、「SC 版総合安全学習プログラム」「安全意識評価システム」「傷害記録評価システム」「ISS 版総合安全学習プログラム」が実装される。また、旧原田 PJ、旧小泉 PJ、旧下田 PJ における研究開発成果もプログラムのメニューとして組み込まれ、これら一連の活動によって得られた認証支援プログラムやその適用事例などの成果は、本プロジェクトでつくる「協働促進 Web サイト」で公開され、SC ネットワーク会議の参加自治体などで、広く活用される。

想定するプロジェクト終了時の 5 つの成果と効果は、以下のとおりである。

【協働促進 Web サイト】

協働促進 Web サイトは、実装活動実施者をはじめ「犯罪からの子どもの安全」領域の研究開発プロジェクト関係者と実装先のモデル SC (厚木市)・モデル ISS (清水小学校) の SC・ISS 関係者の協働促進、SC・ISS 関係者間のネットワーク形成の促進、本実装活動プロジェクトの情報発信・情報共有を図るシステムである。実装活動終了後は、「全国セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク会議」(SC ネットワーク会議)により自立的・継続的に活用されるサイトをめざす。コンテンツ化した「SC 版総合安全学習プログラム」「安全意識評価システム」「傷害記録評価システム」「ISS 版総合安全学習プログラム」の各認証支援プログラム・システムがこのサイトに搭載される。

【SC 版総合安全学習プログラム】

地域における「子どもの犯罪からの安全」を起点にしながらも、交通安全や損傷事故予防などの他の安全分野を包括し、高齢者など幅広い年齢層もカバーしうる、パッケージ化された安全学習プログラムであり、SC の認証に必要なプログラムとして組み込まれ、SC の認証取得・活動推進をはじめ、地域における総合的な安全学習の促進効果が期待される。これまでの研究成果をパッケージ化し、本実装活動期間中にモデル SC (厚木市) 等で開催する研修セミナーを通して SC 版に仕立て、コンテンツ化したプログラムが「協働促進 Web サイト」に搭載される。

【安全意識評価システム】

「子どもの犯罪からの安全」の意識だけでなく、交通事故や転倒事故などの予防や防災などの他の安全意識を含めた総合的な安全意識に関するモデル的なアンケート票が作成され、それを活用して SC・ISS プログラムと安全意識の因果関係等を評価分析する統計解析アプリケーション・システムが構築されることにより、SC・ISS プログラムによる効果を評価するツールを提供することができる。モデル SC（厚木市）・モデル ISS（清水小学校）等で実装した成果をコンテンツ化したシステムが「協働促進 Web サイト」に搭載される。

【外傷記録評価システム】

小中学校の校内における外傷に関するデータ（負傷者の属性や事故の種類、発生場所等）を簡単に入力して記録し、図面上に各種データを重ね合わせて表示できるソフトウェアを作成し、事故の要因を分析・評価できる簡易なシステムを構築する。それにより、データの入力等の作業負担が軽減されるとともに、ISS プログラムの効果を測定・評価するシステムが用意され、ISS の認証だけでなく、SC の認証の支援ツールとしても提供することができる。モデル ISS（清水小学校）等で実装した成果をコンテンツ化したシステムが「協働促進 Web サイト」に搭載される。

【ISS 版総合安全学習プログラム】

小中学校およびその通学路における「子どもの犯罪からの安全」を起点にしながらも、交通安全や損傷事故予防などの他の安全分野を包括し、パッケージ化された小中学校における総合的な安全学習プログラムであり、ISS の認証に必要なプログラムとして組み込まれ、ISS の認証取得・活動推進をはじめ、小中学校における総合的な安全学習の促進効果が期待される。モデル ISS（清水小学校）等で実装した成果をコンテンツ化したプログラムが「協働促進 Web サイト」に搭載される。

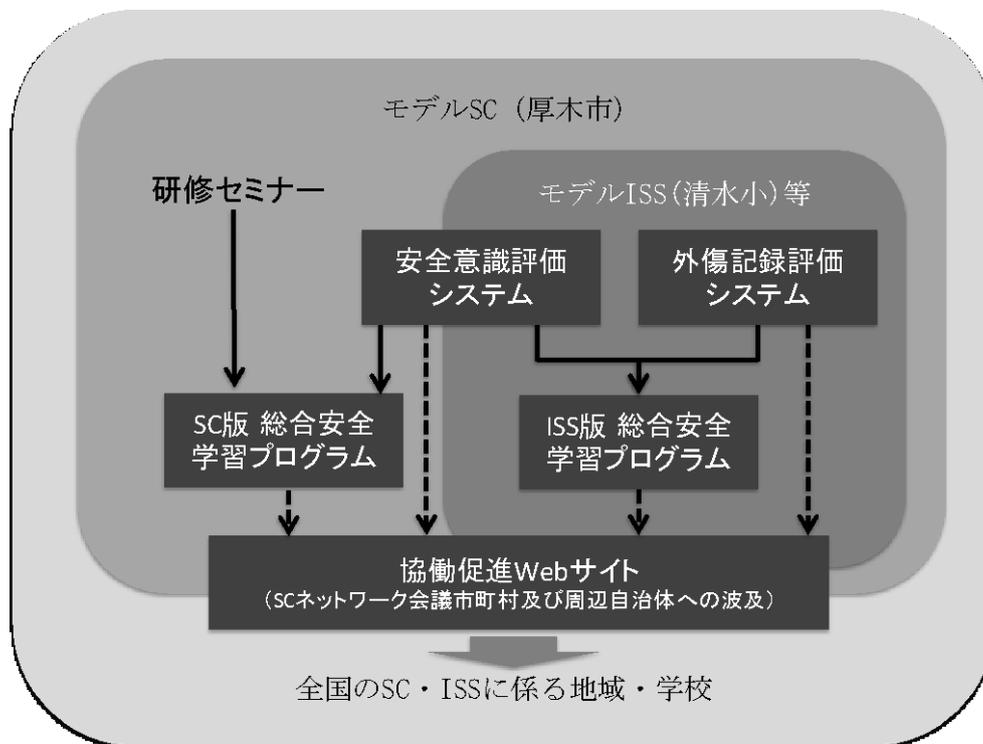


図1. 本プロジェクトのフロー

2 当該年度の実装活動

2-1 全体計画

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度
協働促進 Web サイトの構築	関係者ヒアリング Web サイトの基盤作成	Web サイトの運用・改善 搭載するコンテンツ作成	Web サイトの完成、実装 活動終了後の運営検討
SC 版総合安全学習プログラムの実装	関係者ヒアリング 研修会の試行	他の SC での研修会の開催 安全学習コンテンツ作成	
厚木市における安全意識評価システムの実装	清水小と周辺学校・地域 対象アンケート	厚木市の安全意識評価シ ステムの検討	事後アンケート・評価 システムのパッケージ化
清水小等における傷害記録評価システムの実装	清水小における傷害デー タ記録プログラムの試行	清水小と周辺学校等他校 での検証、改良版の作成	他のデータ技術を活用し た改良版システムの検証
ISS 版総合安全学習プログラムの実装	関係者ヒアリング 研修会の試行	傷害データに基づく安全 学習プログラムの実施	安全学習プログラムの 効果検証と改良
その他パッケージ・プログラムの実装		清水小と周辺学校・地域に おける実装	他の SC における実装

2-2 当該年度（平成25年度）における実装活動

(1) 当該年度の実装活動の概要

【協働促進 Web サイトの構築】

当初の計画どおり、SC・ISS 関与者等のニーズの把握、既往コンテンツとの調整により Web サイトの基本構成の素案と基礎的なコンテンツを作成した。SC ネットワーク会議の関係者と協議を重ねた結果、本サイトは統合実装PJの成果を搭載したAサイト(sc-iss.jp)とSC ネットワーク会議の情報共有を図るBサイト(sc-iss.net)の2本立てにして相互にリンクすることにした。Aサイトは平成26年2月に一般公開し、Bサイトは内部関係者のみに公開した。その間、子ども安全まちづくりパートナーズのサイトで実装活動の報告や事例紹介を行った。

【SC 版総合安全学習プログラムの実装】

これまでの研究成果を組み合わせパッケージ化した総合安全学習プログラムを厚木市において試行し、研修会を開催した。また、旧原田PJの地域の安全点検記録作成支援ソフトウェアを組み合わせ「まちな安全点検マップづくり」を厚木市内で試行した。その結果をもとに、総合安全学習プログラムや研修メニュー等のプログラムのコンテンツを作成し、協働促進 Web サイトに実装した。さらに、SC 実施自治体、ISS 認証校・認証予定校に対するヒアリングから、科学的根拠に基づく取組みとその評価に対するニーズを把握し、これまでの研究成果とのマッチングを図り、実施者が活用できる教材やマニュアル、担い手育成のための研修メニューのニーズの把握を行った。

【厚木市における安全意識評価システムの実装】

厚木市と清水小学校等のヒアリングを踏まえ、清水小周辺地区の居住者 3,000 名を対象とした SC プログラムや ISS プログラムに関するアンケートを行い、1,376 名から回答を得た(回収率 45.9%)。それをもとに SC/ISS 活動の効果や課題に関するパス解析を行い、成果を厚木市へフィードバックするとともに質問紙の改良を行った。清水小学校の児童対象のアンケートは、清水小との間で実施の合意に至らなかったことから、同校の卒業生が通う睦合南中学校で試行すべく関係者との調整を行った。

【清水小等における傷害記録評価システムの実装】

清水小における過去の学校サーベイランスデータと日本スポーツ振興センターの災害給付データを入手し、ISS 版総合安全学習プログラムとも絡めて外傷データを活用した安全教育プログラムの検討と実施を清水小学校と台東区立金竜小学校(平成 26 年 2 月 ISS 認証取得)で行った。また、日本スポーツ振興センターのデータをもとに、ISS 版外傷サーベイランスシステムを作成し、小中学校への導入検討を行った。医療機関サーベイランスのバリア分析については、関係者との調整を進めている。

【ISS 版総合安全学習プログラムの実装】

旧藤田 PJ の e-learning 教材の DVD 版を作成し、一般校での実用化を目指した。また、安全学習教材に関する説明会を清水小学校他で行った。また、4~6 時限構成で、校内・校外の外傷予防を目的とした教材と指導案を作成し、一部を ISS 認証予定校の台東区立金竜小学校にて実施した。

(2) 当該年度の実装活動の具体的内容

【協働促進 Web サイトの構築】

- SC ネットワーク会議関係者のヒアリングを重ね、ニーズの把握や既往コンテンツとの調整を行いながら、Web サイトの構成、グランドデザイン・ワイヤーフレーム、CMS システム・データ構成を検討し、統合実装したパッケージやプログラム、実装活動事例、SC 及び ISS の情報発信と情報共有を目指した Web サイトの基本構成の素案とコンテンツを作成した。
- 本サイトの素案を SC ネットワーク会議の関係者に照会して統合実装 PJ 終了後の運営方法を含めて協議を重ねた。その結果、SC ネットワーク参加自治体の取組みが本プロジェクトのコンテンツの一部となることへの違和感や、SC ネットワーク参加自治体が Web を活用して行おうとしている防犯協定との関係の不明瞭さから、現段階では統合実装 PJ の運営サイトに SC ネットワーク会議のサイトを含めることは困難であると判断し、前者と後者のサイトを分離して A サイト (sc-iss.jp) と B サイト (sc-iss.net) の 2 本立てにして相互にリンクすることにした。
- A サイトには、統合実装 PJ で作成した「まちの安全点検マップづくり (PTA 実施版)」、「子どものケータイ・インターネット利用問題対策講習会」、学校における傷害事故予防・自転車事故予防のプログラムや安全教育の教材等のコンテンツと、厚木市においてそれらのプログラムを適用した事例、聞き書きマップ、e-learning 等の講習会の実施事例等を掲載した。
- B サイトは、SC 推進自治体ネットワーク会議と参加自治体の紹介、統合実装 PJ のプログラムの紹介、メンバー専用の各ページで構成してそれらのサンプルを掲載した。サイトの構築にあたっては、SC ネットワーク会議の関連自治体との調整があるため、パスワード付きで内部関係者のみに公開した。

- ・ 協働促進 Web サイトの構築中は、子ども安全まちづくりパートナーズのサイトを利用して、実装活動の報告や事例紹介を行った。

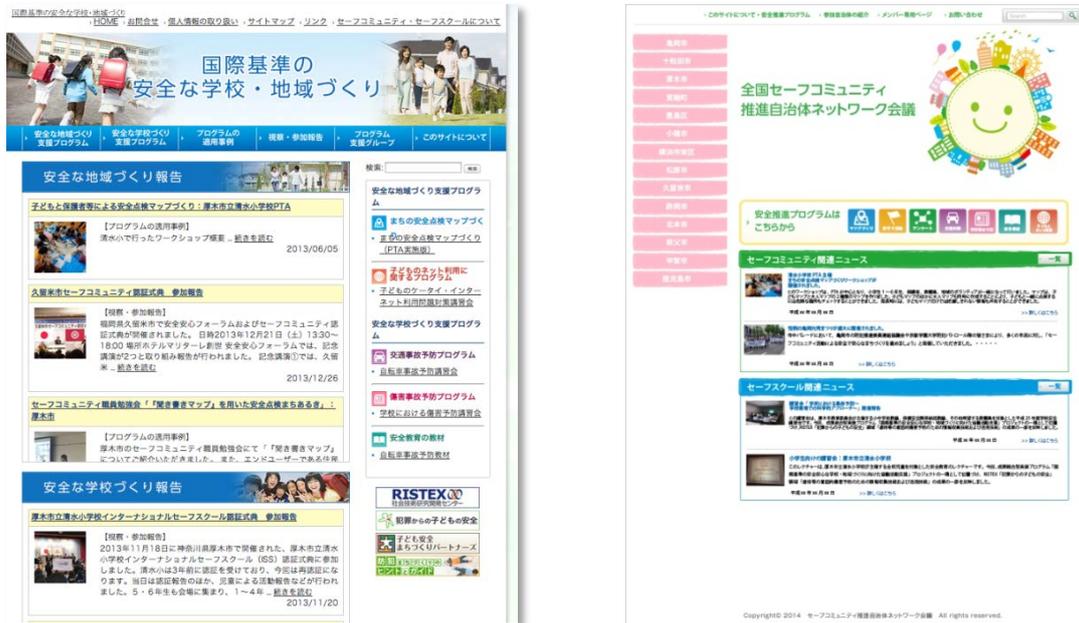


図 2. 協働促進 Web サイト トップページ (左 : sc-iss.jp, 右 : sc-iss.net)

【SC 版総合安全学習プログラムの実装】

- ・ 厚木市におけるヒアリングの結果、PTA や自治会等による安全マップづくりの指導（清水小学校、SC 推進課）、自転車事故予防に関する安全教室や研修（清水小学校、交通安全対策協議会）、保護者、教員への子どもとメディアとの関わりについての研修とワークショップ（森の里中学校、教育委員会）、子どもの危険予知能力向上ワークショップ教材と職員研修（こども未来部）、自殺予防（健康づくり課）、交通安全対策ワークショップ（厚木警察、SC 推進課）、市職員研修による SC 活動の理解の促進（SC 推進課）のニーズが明らかとなった。そこで、各研修やワークショップ、教材づくり等を実施した。（4-1、(1) ①SC 版総合安全学習プログラムの実施履歴一覧を参照。）
- ・ PTA や自治会等による安全マップづくりについては、「まちの安全点検マップづくり」として、旧山本 PJ の知見と旧原田 PJ の聞き書きマップツールを組み入れた形で実施し、実務レベルで課題となりやすい事柄を把握した。この結果をもとに、「まちの安全点検マップづくり」の担い手育成のための研修プログラムを作成した。また、研修後に実際に住民だけでも「まちの安全点検マップづくり」が実施できるよう支援する「実施マニュアル」の作成を進めた。
- ・ まちの安全点検マップづくりの実装可能性を把握するため、秩父市で ISS 認証取得に向けた活動を始めた南小学校区、花の木小学校区、第二中学校区の現地調査を行い、また、SC 担当課・教育委員会・南小学校・第二中学校の担当者を交え、まちの安全点検マップの活用について検討を行った。
- ・ 自転車事故予防に関する安全教室は、清水小学校と協力し、旧山中 PJ の知見から作成した事故予防コンテンツを活用して朝会にて全校生徒に対するレクチャーを行い、意識変容効果調査を行った（下記④で述べる校舎・遊具等の事故の安全教室も同時に行った）。また、交通安全対策協議会の主催する講演会にて、動画等を用いて研修を実施した。
- ・ 子どもとメディアの関わりについては、旧下田 PJ の知見を活かし、厚木市立森の里中学校及び厚木市小中学校 PTA 連絡協議会と教育関係者の研究会にて、研修及びワークショップを行

った。研修の前には事前アンケートを中学生に対して行い、旧山本PJのパス解析による分析結果を踏まえた講習の内容とした。これらの実践を通して、家庭、学校が子どもと一緒に学習する教材の有用性が把握され、子どもと大人（教師や保護者）で学べるワークブックの作成を行った。

- ・ 子どもの危険予知能力向上に関するKYT（危険予知トレーニング）プログラムの教材については、現場のニーズや旧山中PJのデータをもとに教材づくりを行った。また職員研修に関しては、厚木市こども未来部の研修スケジュールとの関連から、来年度の6月以降に行うこととした。

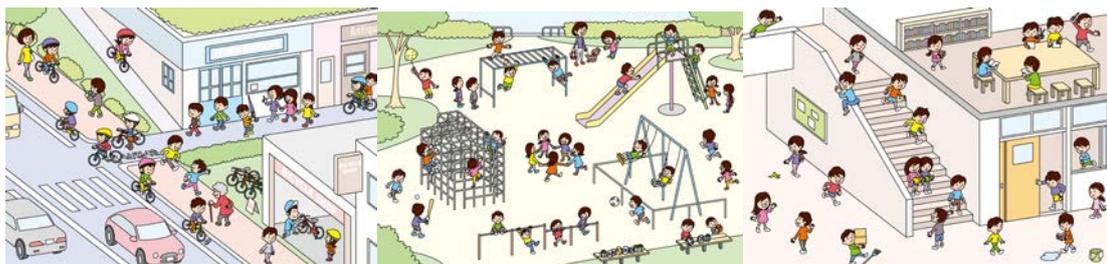


図3. 危険予知トレーニングプログラムの教材

- ・ 自殺予防については、厚木市では市職員のゲートキーパー養成プログラムと50代男性をターゲットとした研修会を要望していたため、厚木市とのマッチングははかれなかったが、他のSC認証自治体のヒアリングや視察等から、自殺はセーフコミュニティの課題として取りあげられていることから、旧小泉PJのSEL-8Sを応用し、子ども安全まちづくりパートナーズにて青少年向けの自殺一次予防ワークショップ・プログラムとコンテンツを作成することとした。ヒアリングから得られたニーズに対して新たに立案した計画であったため、年度途中ではすぐに中学校の協力校が見つからず、今年度は昭和薬科大学1年生で試行し、ワークショップ・プログラムの評価とコンテンツの内容について検討を進めた。
- ・ 交通安全ワークショップについては、旧山本PJの知見を活かし、厚木市戸室地区にて3回のワークショップを行った。現状把握として、ヒヤリハットの収集（場所、時間、年齢層）を行い、課題を解決するために地域住民自身ができる交通安全活動のプログラム案を検討した。
- ・ 市職員研修によるSC活動の理解の促進については、旧山本PJ、旧山中PJ、旧原田PJの成果をSCプログラムに反映するため、山本、西田、原田がそれぞれ研修を行った。これをもとに、自治体職員向け研修プログラムのコンテンツを作成した。
- ・ 台湾におけるSC、ISSの視察を行った。淡江大学では、ソフト面のプログラムだけでなく、学生の心の健康をサポートする交流サロンや相談室の設置、校内の事故を軽減するためのバス停留所や学校門付近の整備の改善、昼食のデリバリー用二輪車の校内乗り入れ数を減少させるため、校内でお弁当や食事を提供するカフェテリアの設置など、ハード面の取り組みも進んでいた。また、三民国中学校は環境学習を積極的に取り入れたプログラムが日本との相違点として特徴的であった。内湖のSCの取り組みでは、市民協働で取り組んだ白石湖観光農園が特徴的であり、土砂災害等の自然災害や交通事故等からの安全性も考慮した地域おこしが行われていた。このように内湖のSCとISSは安全だけでなく、環境や観光ともリンクした取り組みが行われていた。

【厚木市における安全意識評価システムの実装】

- ・ 清水小学校、厚木市睦合南公民館地区（ISS認証校の清水小学校と隣接する妻田小学校の両校区を含む）にヒアリングを行い、SCおよびISSの取り組みを住民および保護者の意識面から評価するための質問紙を作成した。

- ・ 睦合南公民館地区の住民 3,000 名に安全意識アンケートを実施し（回収率 45.9%）、地域安全活動の種類ごとの効果をパス解析によって検証した。
- ・ 厚木市によらず、他の SC 認証または認証予定自治体の地域活動評価に活用できるよう、調査票の一般化を図った。
- ・ 清水小学校における児童の意識評価アンケートは、清水小学校は再認証の準備等の理由からその他の校務が過密スケジュールになっており、清水小学校の合意が得られず実施できなかった。そこで、清水小学校の卒業生が通い ISS 認証取得を目指す睦合東中学校、及び新たに ISS 取得を目指す秩父市内小学校とアンケートの実施について調整を行なった。

【清水小等における傷害記録評価システムの実装】

- ・ 清水小学校において、現在使用している外傷記録用紙を用いて収集されたデータを分析し、小学校等で行う予防活動のための教育コンテンツ（校舎・遊具の事故）を作成した。
- ・ 予防活動・安全学習のための項目が入力できる外傷データ記録ソフトウェア（GIS機能を有する）を試作した。外傷データ記録ソフトウェアの導入には至っていないが、紙版の記録票に関しては、長崎県大村市立三城小学校への導入を行い2013年12月～2014年1月までに140件のデータ収集を行った。今後、導入意志のある学校に協力することで記録票やソフトウェアの検証を進める計画である。
- ・ 日本スポーツ振興センターと協力し、厚木市の小学校の事故データ（2009年～2012年の災害給付・事故データ(3,854件)）を入手し、特定の学校の事故の経年変化や他校との傾向の比較などが可能であることを検証した。
- ・ 睦合東中学校及び厚木市教育委員会と、中学校ISS認証取得に向け外傷サーベイランスの導入について検討を行った。

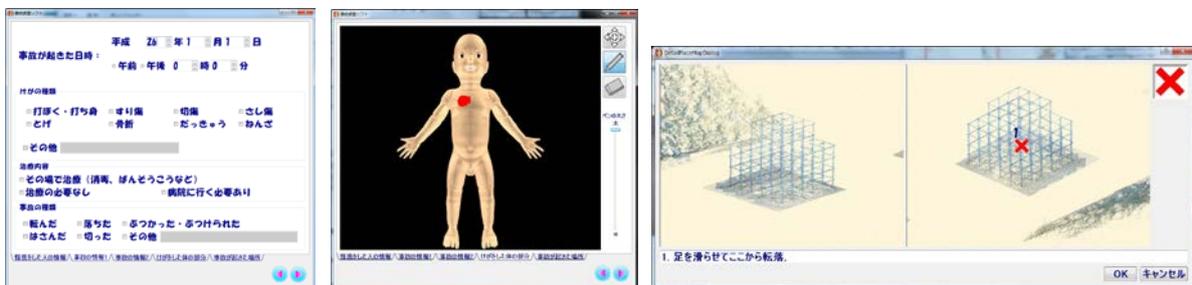


図4：外傷データ記録ソフトウェア

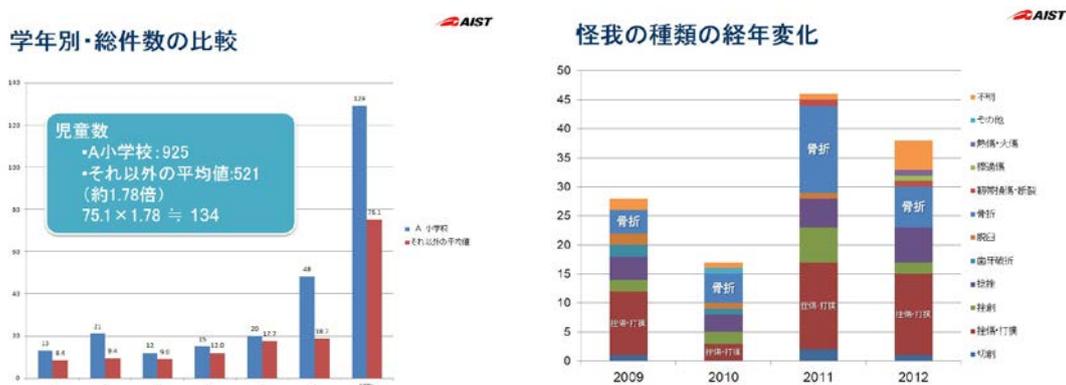


図5：日本スポーツ振興センターのデータ分析例

【ISS 版総合安全学習プログラムの実装】

- 学校安全に関する研修では、厚木市立小中学校教職員を対象に、外傷サーベイランスとそのデータに連動した安全教育の方法について事例を踏まえて紹介を行う研修プログラムを実施した。
- 清水小学校において、9月に全教職員を対象として「これからの安全教育～附属池田小学校の取り組みとe安全学習システムについて～」と題した講習会を行い、開発したe安全学習システムの岡山県における社会実装事例を参考にしながら、教材構成理念の解説と今後のわが国のISS認証活動における安全教育が目指すべき方向性について解説を行った。
- 大教大と産総研が協力し、小学校の5・6年生を対象とした科学的根拠に基づく安全学習プログラムの作成を行った。5・6年生の保健体育の時間の4コマを想定したプログラムであり、以下の内容から構成されるものである。
 - ① 45分 学校の校舎内の危険のレクチャー
 - ② 45分 学校の校庭の危険のレクチャー
 - ③ 45分 学校の校舎内・校庭の危険に関するグループワーク
 - ④ 45分 児童による安全アクションプランの発表会
 さらに、そのための指導案（教育観、児童観、指導観、指導計画）を作成した。
- 東京都台東区立金竜小学校にて、3年生、6年生を対象に開発した安全教育プログラムを活用した授業を行うことで開発プログラムの検証を行った。

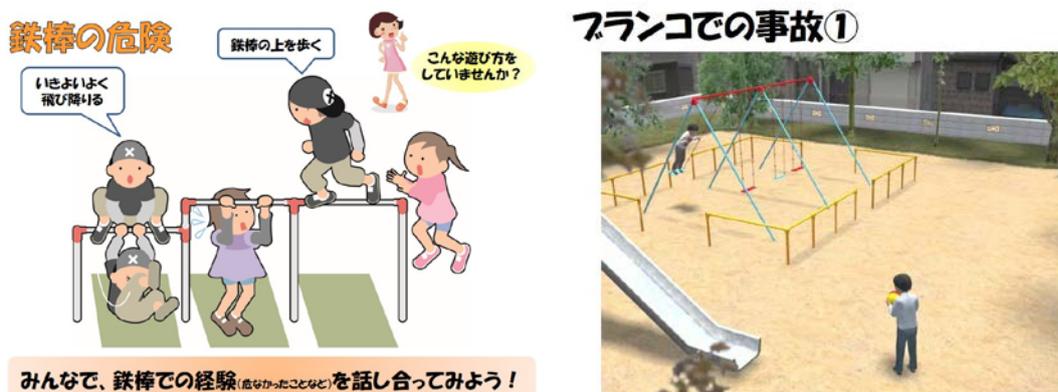


図6：安全学習プログラムの教材例（遊具の危険）

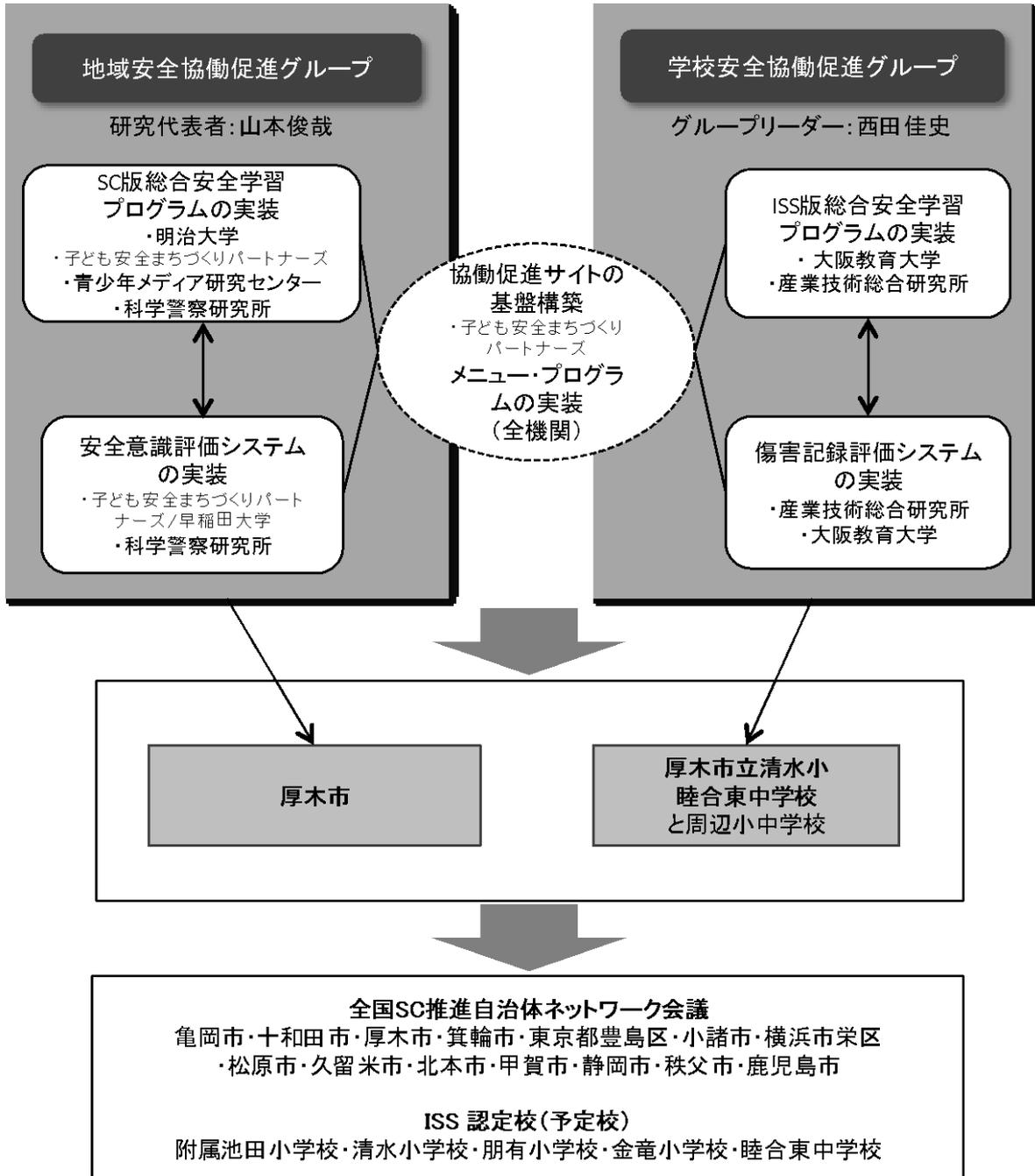


図7：安全学習プログラムの教材例（校舎内の危険の動画）

- 上記「外傷予防教材」のISS認証活動校への導入と共に、旧藤田PJで開発したデジタル教材のISS認証活動校における普及を目的として、インターネットに接続しなくても利用可能なDVD版教材の配布準備（利用許諾画面を含む）を行った（平成26年4月から配布可能）。

3 実装活動の推進体制

3-1 実装活動の推進体制図



3-2 実装活動実施者、協力者

地域安全協働促進グループ（グループリーダー：山本俊哉）

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 実装活動実施項目
山本 俊哉	ヤマモトシヤ	子ども安全まちづくりパートナーズ ／明治大学理工学部	代表理事 教授	協働促進Webサイトの構築 SC版安全学習プログラムの実装
原田 豊	ハラダ ユタカ	科学警察研究所犯罪行動科学部	部長	安全意識評価システムの実装 SC版安全学習プログラムの実装
小泉 令三	コイズミ レイゾウ	福岡教育大学大学院 教育学研究科	教授	SC版安全学習プログラムの実装 その他パッケージ・プログラムの実装
小島 隆矢	コジマ タカヤ	子ども安全まちづくりパートナーズ ／早稲田大学人間科学院	理事 准教授	安全意識評価システムの実装
重根 美香	シゲネ ミカ	明治大学理工学部／子ども安全 まちづくりパートナーズ	研究推進員 事務局長	協働促進Webサイトの構築 安全意識評価システムの実装
石井 洋平	イシイ ヨウヘイ	子ども安全まちづくりパートナーズ	研究員	協働促進Webサイトの構築
橋 たか	タチバナ タカ	子ども安全まちづくりパートナーズ	研究員	協働促進Webサイトの構築 SC版安全学習プログラムの実装
若林 直子	ワカバヤシ ナオコ	子ども安全まちづくりパートナーズ	研究員	安全意識評価システムの実装
山田 洋平	ヤマダ ヨウヘイ	福岡教育大学	研究補助員	SC版安全学習プログラムの実装 その他パッケージ・プログラムの実装
藤賀 雅人	フジガ マサト	目白大学社会学部	専任講師	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
坂本拓也	サカモト タクヤ	目白大学社会学部	B3	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
佐藤 安澄	サトウ アズミ	明治大学大学院理工学研究科	M1	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
李 仙花	イ ソナ	明治大学大学院理工学研究科	M1	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
天津 朋道	アマツ トモミチ	明治大学大学院理工学研究科	M2	SC版安全学習プログラムの実装
稲垣 祥子	イナガキ サチコ	明治大学大学院理工学研究科	M2	SC版安全学習プログラムの実装
大村 信望	オオムラ ノミ	明治大学大学院理工学研究科	M2	SC版安全学習プログラムの実装
織田 真実	オダ マサミ	明治大学大学院理工学研究科	M1	SC版安全学習プログラムの実装
穂坂 彩乃	ホサカ アヤノ	明治大学大学院理工学研究科	M1	SC版安全学習プログラムの実装
亀井 一得	カメイ イットク	明治大学大学院理工学研究科	M1	SC版安全学習プログラムの実装
陳 利華	チン リカ	明治大学大学院理工学研究科	M1	SC版安全学習プログラムの実装
吉野 加偉	ヨシノ カイ	明治大学理工学部	B4	SC版安全学習プログラムの実装
秋山 奈保子	アキヤマ ナオコ	明治大学理工学部	B4	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
森北 沙恵子	モリキタ サエコ	明治大学理工学部	B4	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
白幡 玲子	シラハタ レイコ	明治大学理工学部	B4	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
小花 璃美	オバナ リミ	明治大学理工学部	B4	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
大成 由里子	オオナリ ユリコ	明治大学理工学部	B4	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
小林 大祐	コバヤシ ダイスケ	明治大学理工学部	B4	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装

渡邊 弘木	ワタナベ ヒロキ	明治大学理工学部	B4	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
増田 英貴	マスダ ヒデキ	明治大学理工学部	B4	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
黄 民柱	ファン ミンジュ	明治大学理工学部	B4	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
斎藤 了一	サイトウ リョウイチ	明治大学大学院理工学研究科	M2	SC版安全学習プログラムの実装
新田 海無	ニッタ カイム	明治大学理工学部	B4	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
天野 友貴	アマノ トモキ	明治大学理工学部	B3	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
熊谷 友花	クマガイユカ	明治大学理工学部	B3	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
小宮山 純加	コミヤマスマカ	明治大学理工学部	B3	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
富田 靖寛	トミタヤスヒロ	明治大学理工学部	B3	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
沼尻 麗	ヌマジリ レイ	明治大学理工学部	B3	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
小池 里奈	コイケリナ	明治大学理工学部	B3	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
山中 盛	ヤマナカシゲル	明治大学理工学部	B3	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
三木 聖那	ミキセイナ	明治大学理工学部	B3	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
相川 雄慎	アイカワユウシン	明治大学理工学部	B3	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
六車 柁俊	ムグルママサトシ	明治大学理工学部	B3	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
清水 拓海	シミズタクミ	明治大学理工学部	B3	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装
金安 淳美	カネヤスアツミ	明治大学理工学部	B3	SC版安全学習プログラムの実装 安全意識評価システムの実装

学校安全協働促進グループ（グループリーダー：西田佳史）

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	担当する 実装活動実施項目
西田 佳史	ニシダ ヨシフミ	産業技術総合研究所デジタル ヒューマン工学研究センター	首席研究員	傷害記録評価システムの構築 ISS版総合安全学習プログラムの実装
山中 龍宏	ヤマナカ タツヒロ	緑園こどもクリニック	院長	傷害記録評価システムの実装 厚木市の医療機関におけるバリア分析
北村 光司	キタムラ コウジ	産業技術総合研究所デジタル ヒューマン工学研究センター	研究員	傷害記録評価システムの構築 ISS版総合安全学習プログラムの実装
大野 美喜子	オオノ ミキコ	産業技術総合研究所デジタル ヒューマン工学研究センター	研究員	傷害記録評価システムの構築 ISS版総合安全学習プログラムの実装
渡辺 加代	ワタナベ カヨ	産業技術総合研究所デジタル ヒューマン工学研究センター	テクニカルスタッフ	傷害記録評価システムの構築 ISS版総合安全学習プログラムの実装
藤田 大輔	フジタ ダイスケ	大阪教育大学 学校危機メンタル サポートセンター	教授 センター 長	ISS版総合安全学習プログラムの実装
豊沢 純子	トヨサワ ジュンコ	大阪教育大学 学校危機メンタル サポートセンター	准教授	ISS版総合安全学習プログラムの実装
山村 賛美	ヤマムラ サンビ	大阪教育大学 学校危機メンタル サポートセンター	研究員	ISS版総合安全学習プログラムの実装
重根 美香	シゲネ ミカ	明治大学理工学部 子ども安全まちづくりパートナーズ	研究推進員 事務局長	ISS版総合安全学習プログラムの実装
橘 たか	タチバナ タカ	子ども安全まちづくりパートナーズ	研究員	ISS版総合安全学習プログラムの実装
佐藤 安澄	サトウ アズミ	明治大学大学院理工学研究科	M1	ISS版総合安全学習プログラムの実装

(参考) 実装協力者一覧

実装グループ名：地域安全協働促進グループ（山本俊哉）

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	協力内容
倉持 隆雄	クラモチ タカオ	厚木市危機管理部	部長	厚木市および全国SC自治体に関する情報提供と連携調整
山内 勇	ヤマウチ イサム	亀岡市政策推進室	室長	亀岡市および全国SC自治体に関する情報提供と連携調整
斎藤 雅人	サイトウ マサト	豊島区区役所	特命政策 担当部長	豊島区のSCとISSに関する情報提供と連携調整
井上 憲正	イノウエ ノリマサ	厚木市危機管理部 セーフコミュニティ推進課	課長	厚木市教育委員会や清水小周辺地域関係者との連携調整
藍原 万里子	アイハラ マリコ	厚木市立清水小学校	校長	清水小学校関係者および周辺小中学校関係者と連携調整
守山 正	モリヤマ タダシ	拓殖大学政経学部	教授	安全意識調査アンケートの内容とその分析結果の考察に対する助言
島田 貴仁	シマダ タカヒト	科学警察研究所 犯罪予防室	室長	安全意識調査アンケートの内容とその分析結果の考察に対する助言
狗飼 豊	イヌカイ ユタカ	子ども安全まちづくりパートナーズ	理事	協働促進Webサイトの構築と各種情報発信に対する助言
下田 太一	シモダ タイチ	(特) 青少年メディア研究協会	理事長	SC版安全学習プログラムの提供とその他パッケージ・プログラムの実装に関する助言
吉永真理	ヨシナガ マリ	昭和薬科大学	教授	SC版安全学習プログラムとその他パッケージ・プログラムの実装に関する助言

学校安全協働促進グループ（グループリーダー：西田佳史）

氏名	フリガナ	所属	役職 (身分)	協力内容
藍原 万里子	アイハラ マリコ	厚木市立清水小学校	校長	清水小学校関係者および周辺小中学校関係者と連携調整
井上 憲正	イノウエ ノリマサ	厚木市危機管理部 セーフコミュニティ推進課	課長	厚木市教育委員会や清水小周辺地域関係者との連携調整
山田 淳司	ヤマダ ジュンジ	厚木市教育委員会 青少年教育相談センター	所長	厚木市教育委員会、厚木市児童思春期精神保健NW推進委員会等との連携調整
栗原 まな	クリハラ マナ	神奈川県総合リハビリテーションセンター 東京慈恵会医科大学 小児科	小児科部長 准教授	子どもの傷害に関する傷害データ（特に、後遺症データ）に関する協力
木下 勇	キノシタ イサミ	千葉大学大学院園芸学研究科	教授	子ども環境に係るパッケージ・プログラムに関する助言
杉本 裕	スギモト ユタカ	日本スポーツ振興センター	学校安全部 業務推進役	厚木市における小中学校の事故データの提供

4 当該年度における実装活動の一覧

4-1 実装活動の実績一覧

(1) 実装に向けた研修・ワークショップ・アンケートの試行

①SC 版総合安全学習プログラム

年月日	名称	場所	概要
2013年6月1日	まちの安全点検マップづくりワークショップ	清水小学校	清水小学校PTAと協働し、旧山本PJの安全点検マップづくりWSと旧原田PJの聞き書きマップの活用を実施 講師：山本俊哉・原田豊 ファシリテーター・記録：橘たか・重根美香
2013年9月19日	森の里中学校PTA研修	森の里中学校	事前に全校児童と保護者にアンケートを行い、その分析結果も踏まえた講演とWSのプログラムを実施／下田太一：「子どもとインターネット」を講演及びWSの実施 WSファシリテーター：橘たか アンケート分析・記録：重根美香
2013年10月12日	PTA会長と教育関係者との研究会	ヤングコミュニティセンター大会議室	下田太一：「子どもとメディアとの関わりについて」を講演・WS実施 WSファシリテーター：橘たか アンケート分析・記録：重根美香
2013年10月31日	第1回厚木市職員研修	厚木市役所会議室	山本俊哉：「地域の安全を守る防犯まちづくり」を講演 記録：橘たか
2013年11月11日	第2回厚木市職員研修	厚木市役所会議室	原田豊：『聞き書きマップ』を用いた安全点検まちあるきを講演 記録：橘たか
2013年11月11日	まちの安全点検マップづくりレクチャー（みらい文化川本自治会）	厚木市役所会議室	原田豊：「まちの安全点検マップづくり」のレクチャー及び当日プログラムの作成支援 記録：橘たか
2013年11月20日	厚木市「平成25年度安心・安全なまちづくり研修会プログラム」	厚木市文化会館	西田佳史「子どもの事故を科学的に予防する～多職種連携によるアプローチ～」 山本俊哉「持続可能な安心・安全なまちづくり～地域における見守りの目を増やす～」を講演 記録：橘たか
2013年11月24日	厚木市戸室地区第1回交通安全対策ワークショップ	戸室公民館	「ヒヤリハットを共有する」 ファシリテーター：橘たか 記録：重根美香
2013年12月15日	厚木みらい文化川本自治会まちの安全点検マップづくり	みらい文化川本自治会区	原田豊：「聞き書きマップ」を用いたWS講師 記録：橘たか

2013年12月7日	厚木市平成25年厚木市交通安全市民総ぐるみ大会	厚木市文化会館	西田佳史：「自転車の事故を防ぐには～データに基づく頭部外傷と加害事故の予防～」を講演 記録：重根美香
2013年12月20日	SEL-8Sを応用した自殺一次予防WS	昭和薬科大学	綾千晶：「いらいら」コントロール／井手恵美：ソーシャルサポートとは？／吉永真理：友達に手を差し伸べるには？ の3つのWSを大学1年生に実施 記録：重根美香
2014年1月18日	厚木市戸室地区第2回交通安全対策ワークショップ	戸室公民館	「ヒヤリハットを分析し、自分たちのできることを考えてみる」 ファシリテーター：橘たか 記録：重根美香
2014年2月13日	第3回厚木市職員研修	厚木市役所会議室	西田佳史：「科学的に見た事故予防」を講演 記録：重根美香
2014年2月15日	厚木市戸室地区第3回交通安全対策ワークショップ	戸室公民館	「具体的な交通安全活動プランを検討してみる」 ファシリテーター：橘たか 記録：重根美香
2014年2月28日	家庭教育情報提供講演会	厚木市文化会館 小ホール	下田太一：「子どもとメディアとの関わりについて」を講演 WSファシリテーター：橘たか

②安全意識評価システム

2013年10月5日～7日	地域住民意識調査	睦合南公民管区	3000票、ポスト投函配布、10/18㊦切で郵送回収アンケート分析：小島隆矢・若林直子・重根美香
---------------	----------	---------	--

③傷害記録評価システム・ISS版総合安全学習プログラム

2013年6月18日	安全教育レクチュア「科学的に自分を危険から守ろう」	清水小学校	大野喜美子：全校児童に対し、自転車・学校内の事故予防に関する動画を使ったレクチャーを実施
2013年7月4日	厚木市教育委員会主催平成25年度学校安全講習会	厚木市文化会館	西田佳史：「学校における事故予防～学校環境での科学的アプローチ～」を講演
2013年9月19日	清水小学校職員研修	清水小学校	藤田大輔：「これからの安全教育～附属池田小学校の取り組みとe安全学習システムについて～」を講演
2014年3月8日	大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンターISS推進臨時養成セミナー	さつきホール（国際教育センター池田）	北村光司：「外傷サーベイランスシステム」に関する講演
2014年3月17日	3年生・6年生対象安全教育プログラム	台東区立金竜小学校	大野喜美子：「みんなの学校での事故をみてみよう」

(2) 実装に向けたヒアリング・現地視察等

年月日	名称	場所
2013年5月7日	厚木市 SC 推進施策に関する SC 担当課ヒアリング	厚木市役所
2013年5月12日	箕輪町 SC フォーラムにおける SC 関係者ヒアリング	箕輪町文化センター
2013年5月17日	厚木市副市長への PJ 説明、SC 担当部長ヒアリング	厚木市役所
2013年5月21日	厚木市 SC 研修セミナーに関する SC 担当課との打ち合わせ	厚木市役所
2013年5月22日	豊島区 SC 担当部長への PJ 説明、SC に関するヒアリング	豊島区役所
2013年5月30日	清水小校長に対する PJ 説明、ISS に関するヒアリング	厚木市立清水小学校
2013年6月6日	亀岡市 SC 担当理事への PJ 説明、SC に関するヒアリング	亀岡市役所
2013年6月17日	亀岡市の交通社会実験の現地調査および担当者ヒアリング	亀岡市
2013年6月18日	清水小 ISS の外傷記録に関するヒアリング	厚木市立清水小学校
2013年6月24日	厚木市長と教育長への PJ 説明、SC・ISS に関するヒアリング	厚木市役所
2013年6月25日	厚木市子ども育成課ヒアリング	厚木市役所
2013年6月26日	厚木市健康づくり課ヒアリング	厚木市役所
2013年7月16日	厚木市くらし交通安全課ヒアリング	厚木市役所
2013年7月16日	清水小学校区住民アンケートに関するヒアリング	厚木市役所
2103年7月31日	睦合南公民館地区の住民アンケートに関するヒアリング	厚木市睦合南公民館
2013年8月9日	松原市 SC 担当課への PJ 説明、SC に関するヒアリング	松原市役所
2013年8月9日	厚木市児童館指導員定例報告会視察	厚木市役所
2013年8月10日	亀岡市 SC 推進施策、厚木市 SC 推進施策等のヒアリング	キャンパスプラザ京都
2013年8月21日	厚木市 SC 担当課：協働促進 Web サイトに関するヒアリング	厚木市役所
2013年8月26日	教育委員会社会教育部社会教育課ヒアリング	厚木市役所
2013年9月12日	久留米市 SC 担当課への PJ 説明、SC に関するヒアリング	久留米市役所
2013年9月10日	東京都練馬区田柄小学校講演視察	練馬区田柄小学校
2013年9月19日	鳥取市の芝生公園等先進事例現地調査・担当課ヒアリング	鳥取市役所
2013年9月30日	小諸市教育委員会、ISS 及び ISS 版安全学習教材に関するヒアリング	小諸市教育委員会
2013年10月5日	横浜市栄区 SC 推進施策ヒアリング、SC 推進自治体ヒアリング	栄文化会館
2013年10月9日	厚木市立清水小学校 ISS 現地審査視察・ヒアリング	厚木市立清水小学校
2013年10月21日 ～23日	SC 国際会議 in メリダ・メキシコへの参加と関係者ヒアリング	Hotel Fiesta Americana, Merida
2013年11月15日	長崎県大村市、三城小学校 傷害サーベイランスの説明・ヒアリング	大村市子どもセンター ・三城小学校
2013年11月16日	松原市 SC 推進施策ヒアリング、SC 推進自治体ヒアリング	松原市文化会館
2013年11月29日	秩父市 SC 担当課ヒアリング	秩父市役所
2013年11月31日	台東区立金竜小学校ヒアリング	金竜小学校
2013年12月11日	戸室地区交通安全 WS 関連打ち合わせ	厚木市役所
2013年12月24日	練馬区豊玉小学校講演視察	練馬区豊玉小学校
2013年12月24日	江戸川区紅葉川高校講演視察	江戸川区紅葉川高校
2013年12月25日	厚木市こども育成課ヒアリング	厚木市役所
2014年1月16日	厚木市こども未来部学童・放課後クラブヒアリング	厚木シティプラザ
2014年1月27日	ケータイルールブックワークショップヒアリング	ロジカルキット
2014年1月28日	厚木市教育委員会ヒアリング	厚木市役所

2014年 1月 29日	東京都台東区立金竜小学校 講習会・傷害サーバイヒアリング	金竜小学校
2014年 2月 7日	鹿児島市 SC 担当課ヒアリング	鹿児島市役所
2014年 2月 9日	気仙地域の安全まちづくりに係る中高生ヒアリング	陸前高田市立定住促進センター
2014年 2月 22日	市民安全・安心フォーラム in かめおか 2014 の参加と SC 推進自治体関係者ヒアリング	ガリレアかめおか
2014年 2月 24日	甲賀市 SC 担当課ヒアリング	甲賀市役所
2014年 3月 9日 ～10日	秩父市第二中学校区視察、秩父市 SC 担当課・教育委員会・南小学校 ISS 担当者・第二中学校 ISS 担当者ヒアリング	秩父市役所
2014年 3月 19日 ～24日	台湾、淡江大学、内湖 SC、三民國中学校の視察とヒアリング	淡江大学、三民國中学校、白石湖観光農園

4-2 成果発信・広報活動等一覧

(1) 主催イベント

なし

(2) 招聘等によるイベント

年月日	名称（主催）	場所	概要	規模
2013年 6月 17日	神奈川県市町村防犯担当者研修会（神奈川県くらし安全交通課）	かながわ県民センター（横浜市）	山本俊哉：講演「住民と行政間の連携による防犯まちづくり」	100名
2013年 8月 22日	子供見守りシンポジウム（東京都青少年・治安対策本部、教育庁、警視庁）	東京芸術劇場（豊島区）	山本俊哉：基調講演「地域で守る『子供の安全』」、パネルディスカッション「通学路における子供の安全確保のためできること」（豊島区長、東京都本部長等）	1,000名
2013年 9月 23日	浦安セームカレッジ「セーフカレッジ」	浦安市 市民プラザウェーブ 101	西田佳史：「子どもの遊び場や自転車に潜む危険とは？」	50名
2013年 10月 17日	防犯防災総合展 in KANSAI 2013（防犯防災総合展実行委員会、テレビ大阪）	インテックス大阪（大阪市）	山本俊哉：講演「地域連携の見守りで被害リスクを減らす」 藤田大輔・山本俊哉：パネルディスカッション「子どもの安全と学校の危機管理について」（大阪府警察本部と大阪府教育委員会事務局の担当者）	100名
2013年 10月 24日	まちの安全点検マップづくりレクチャー（妻田中央自治会）	厚木市役所 会議室	橘たか：「まちの安全点検マップづくり」レクチャー及び当日プログラムの作成支援	少人数
2013年 10月 24日	まちの安全点検マップづくりレクチャー（緑ヶ丘2丁目自治会）	厚木市役所 会議室	橘たか：「まちの安全点検マップづくり」レクチャー及び当日プログラムの作成支援	少人数

2013年 11月10日	としま塾 (日本市民安全学会、 警察政策学会)	豊島区勤労福祉 会館 (豊島区)	山本俊哉：講演「安全な学校・地域づく りあれこれ」	30名
2013年 11月10日	妻田中央自治会まちの安 全点検マップづくり	妻田中央自治会	橘たか：「まちの安全点検マップづくり」 プログラム講師	20名
2013年 11月11日	まちの安全点検マップづ くりレクチャー(坊中自 治会)	厚木市役所会議 室	橘たか：「まちの安全点検マップづくり」 レクチャー及び当日プログラムの作成 支援	
2013年 11月13日	千葉県防犯ボランティア 交流大会 (千葉県)	千葉県教育会館 大ホール (千葉市)	山本俊哉：基調講演「地域力で見守る子 どもの安全」、パネルディスカッション 「通登下校の子どもの安全をどう確保 するか」	300名
2013年 11月15日	船橋市PTA連合会研究大 会(船橋市PTA連合会)	船橋市文化ホー ル (船橋市)	山本俊哉：基調講演「リスク社会におけ る子ども安全まちづくり」 重根美香・橘たか：分科会「まちの安全 点検マップ」の講演と演習指導	800名 40名
2013年 11月17日	平成25年度「子ども安全 の日の集い」(奈良市・奈 良市教育委員会)	奈良市西部会館 市民ホール (奈良市)	藤田大輔：「子どもの安全は大人たちの まなざしの先にある」	300名
2013年 11月7日	浦安市富士見3丁目自治 会安全点検マップづくり	浦安市富士見 3丁目自治会区	原田豊：「聞き書きマップ」を用いたま ちの安全点検マップづくりWS	少人数
2013年 11月30日	緑ヶ丘2丁目自治会まち の安全点検マップづくり	厚木市緑ヶ丘 2丁目自治会	橘たか：「まちの安全点検マップづくり」 プログラム講師	15名
2013年 12月7日	総社市PTA連合協議会	岡山県総社市立 図書館会議室	藤田大輔：「子どもの安全は大人たちの まなざしの先にある」	100名
2013年 12月8日	坊中自治会まちの安全 点検マップづくり	厚木市 坊中自治会	橘たか：「まちの安全点検マップづくり」 プログラム講師	20名
2013年 12月20日	第17回大阪市虐待医療 支援検討会	大阪市子ども相 談センター	北村光司：「傷害の科学的な検証」	50名
2014年 1月18日	下古沢上分自治会 「まちの安全点検マップ づくり」講習とWS	下古沢上分老人 憩いの家 (厚木市)	重根美香：「まちの安全点検マップづく り」講演とWSファシリテーター	18名
2014年 1月25日	みんなで協働のまちづく りシンポジウム(土浦市)	土浦市民会館大 ホール(土浦市)	木下勇：「地域の関わりで子どもの自主 性を育む」	300名
2014年 2月3日	群馬県自主防犯パトロー ル団体研修会 (群馬県)	テクノプラザ おおた (太田市)	重根美香：講演 「防犯活動から安全まちづくりへ」	100名
2014年 2月10日	江戸川人生総合大学 (江戸川区)	篠崎文化プラザ (江戸川区)	山本俊哉：講演「防犯まちづくりを通し た安全・安心」	30名
2014年 2月12日	平成25年度京都市学校安 全ボランティア講習会 (京都市教育委員会・ 京都市子ども安全会議)	京都市総合 教育センター (京都市)	藤田大輔：「子どもの安全は大人たちの まなざしの先にある」	

2014年 2月15日	横須賀市防犯講演会 (横須賀市安全・安心 まちづくり推進連絡協議 会)	横須賀芸術劇場 (横須賀市)	山本俊哉：講演 「防犯活動からまちづくりへ」	大雪のため、当日 中止決定
2014年 2月19日	SRMオピニオンセミナー (品質と安全文化フォー ラム)	明治大学紫紺館 (千代田区)	山本俊哉：講演「近代的な安全文化の 再考～津波と犯罪からの子どもと住ま いの安全を例に」 西田佳史：講演「安全へのアプローチ～ 危ない！の科学と日常生活インフォマ ティクス」	30名

(3) 運営ウェブサイト

- ・ 「虐待などの意図的傷害予防のための情報技術及び活用技術」
<http://www.cipec.jp/ipert/jp/> (2010年12月より継続運用)
- ・ 「科学が支える子どもの被害防止」 <http://www.skre.jp/> (2009年8月)
- ・ 「子ども安全まちづくりパートナーズホームページ」 <http://kodomo-anzen.org/>
(2010年4月より継続運用)
- ・ 「国際基準の安全な学校・地域づくり」 <http://sc-iss.jp/> (2014年2月)
- ・ 「セーフコミュニティ推進自治体ネットワーク会議ホームページ」 <http://sc-iss.net>
(2014年3月関係者のみ公開予定)

(4) 書籍、DVDなど発行物

- ・ 原田豊、2013年、まちあるき記録作成支援ツール『聞き書きマップ』バージョン2、科学警察研究所

(5) メディア掲載等

- ・ 原田豊『『聞き書きマップ』で防犯の取り組みを』、少年写真新聞社『子ども防犯ニュース』2013年4月号
- ・ 原田豊「登下校時の危険と防犯」、『児童心理』2013年5月号
- ・ 原田豊「身近な危険を知るために」、『児童心理』2013年6月号
- ・ 産経新聞、2013年6月8日、「正解なき安全教材開発」と題して防犯教材が紹介
- ・ 原田豊『『聞き書きマップ』の活用』、『児童心理』2013年7月号
- ・ 原田豊「めざせ『問題解決マップ』」、『児童心理』2013年8月号
- ・ NHK ラジオ第1 (全国)「私も一言！夕方ニュース」、2013年8月23日、山本俊哉出演、テーマ「登下校の安全をどう守る？」
- ・ 西田佳史、北村光司、「製品・環境改善アプローチの実践～「見守れる化」のためのパッシブ戦略のすすめ～」、『母子保健』8月号、ヴィトゲン社、Aug. 2013
- ・ 日本経済新聞、2013年8月23日、「防犯 子供自身の意識から一小学校で「安全科」授業広がる -」で防犯教材が紹介
- ・ 信濃毎日新聞、神戸新聞、山陽新聞、徳島新聞、新潟日報、中部経済新聞、サンケイエクスプレス、長崎新聞、2013年11月11日、「【ハロフィンで地域交流】ようこそ魔女さん - 遊び心で見守り、防犯」に山本俊哉のコメント掲載

- Japan Times、2013年11月21日、Halloween trick-or-treating makes for unlikely crime prevention tool に山本俊哉のコメント掲載
- 『宇宙インフラがもたらす経済成長と安全保障・防犯防災の強化：「子どもの防犯等での実際の活用事例や将来構想』、セキュリティ産業新聞、2013年11月10日号
- 「まちあるき記録作成支援ツール『聞き書きマップ』新バージョンを公開」、『セーフコミュニティネットワークニュース』第58号、2013年12月28日
- 「『聞き書きマップ』で誰にでもできる地域安全活動を」、『KOBAN』2014年冬号
- 「使い勝手が大幅に向上した『聞き書きマップ』バージョン2のご紹介」、『GISNext』第46号、2014年1月27日
- あんふあん3月号（サンケイリビング新聞社）「安全の専門家がアドバイス」に、重根美香のコメント掲載

(6) その他

- フェイスブックページ「予防犯罪学推進協議会」（予防犯罪学推進協議会の取り組みの一環として運営）

(7) 学術研究発表

①論文発表（国内誌5件、国際誌0件）

- 原田豊、2013「空間データと発見：小学生の日常活動調査から」『学術の動向』2013年9月号、pp34-40、日本学術協力財団
- 原田豊、2013「『聞き書きマップ』による市民主導のセーフティプロモーション」『学校保健研究』第55巻6号（近刊）
- 山本俊哉、2013：「科学的根拠と地域協働に基づくセーフコミュニティ・プログラム」、『自治体危機管理研究』11号、pp. 45-54
- 山本俊哉、2013：「子どもを見守る地域安全まちづくり」『都市計画』305号、pp. 20-23
- 山中龍宏、北村光司、西田佳史、2013：「子どもの行動心理と傷害予防」『チャイルドヘルス』Vol. 16、No. 8、pp. 562-566

②招待講演（国内会議3件、国際会議2件）

- 原田豊（科学警察研究所）、『聞き書きマップ』による持続可能な安全点検まちあるき、第7回日本セーフティプロモーション学会大会、筑波大学、2013年11月23日
- Tatsuhiro Yamanaka (National Institute of Advanced Industrial Science and Technology) : “Child Abuse or not? Differentiation Using Bodygraphic Information System”, International Workshop on Child Safety, Social Design, and STS in East Asia, National Taiwan Univ., 4th Dec. 2013
- Toshiya Yamamoto (Meiji Univ.) : “Practice Method for ‘Community Design Planned for Crime Prevention’”, International Workshop on Child Safety, Social Design, and STS in East Asia, National Taiwan Univ., 5th Dec. 2013
- 北村光司：「科学の力が生んだ『虐待の簡易識別法』の開発と応用」・第10回日本市民安全学会亀岡大会・第4分科会（タフでしなやかな「これからの自殺予防・虐待防止」）、ガレリアかめおか（亀岡市）、2014年2月22日
- 藤田大輔：「子どもの安全教育とISS認証～これからの子どもの安全のあり方～」第10回日本市民安全学会亀岡大会 第1分科会（タフでしなやかな「これからの子どもの安全・学校の安全」）、ガレリアかめおか（亀岡市）、2014年2月22日

③口頭発表（国内会議 8 件、国際会議 3 件）

- ・ 小泉喜典（産総研）、西田佳史（産総研）、宮崎祐介（東工大）、岩瀬博太郎（千葉大）、高野太刀雄（産総研）、明瀬英行（産総研）、溝口博（産総研）：「社会・生活・生体次元を扱う傷害発生事故予測手法」・第 31 回日本ロボット学会学術講演会予稿集、首都大学東京、2013 年 9 月 4 日
- ・ Akihisa Hirata（産総研）、Koji Kitamura（産総研）、Yoshifumi Nishida（産総研）、Yoichi Motomura（産総研） and Hiroshi Mizoguchi（産総研）：「Accident-Data-Aided Design: Visualizing Typical and Potential Risks of Consumer Products by Data Mining an Accident Database」・2013 IEEE/SICE International Symposium on System Integration, 神戸国際会議場、2013 年 12 月 15 日
- ・ Taketo Matsunaga（産総研）、Yoshifumi Nishida（産総研）、Koji Kitamura（産総研）、Hiroshi Takemura（東京理科大）、"Development of a Spatiotemporal Situation Analysis System Based on Graph Structuralization," 2013 IEEE Conference on Information Management on the Knowledge Economy (IKME2013), Chitkara University (インド)、2013 年 12 月 19 日
- ・ Yutaka Harada (National Research Institute of Police Science), RECENT EFFORTS TOWARD BRIDGING RESEARCH AND PRACTICE AT THE NATIONAL RESEARCH INSTITUTE OF POLICE SCIENCE, The 6th International Conference on Evidence Based Policing, Cambridge, UK, July 9, 2013.
- ・ 原田豊・齊藤知範・山根由子（科学警察研究所）、『『予防犯罪学』の開拓をめざした子どもの被害防止ツールキットの実証実験（1）ツールキットの可用性の検討』、日本犯罪社会学会第 40 回大会、北海学園大学、2013 年 10 月 5 日
- ・ 原田豊・齊藤知範・山根由子（科学警察研究所）・細田耕一（(株) エクシード）・雨宮護（東京大学）、「試験運用を踏まえた野外調査記録作成支援ソフトウェアの機能強化」、地理情報システム学会第 22 回大会、2013 年
- ・ 原田豊（科学警察研究所）、「GIS を活用した子どもの被害の測定と防犯活動の実証的基盤の確立」、第 9 回学校の安全・危機管理セミナー、江戸東京博物館、2013 年 7 月 26 日
- ・ 原田豊（科学警察研究所）、「まちあるき記録作成支援ツール『聞き書きマップ』の準天頂システム対応化」、高精度衛星測位サービス利用促進協議会 社会実証準備 WG（第 2 回）、2013 年 10 月 2 日
- ・ 原田豊（科学警察研究所）、「子どもの防犯等での実際の活用事例や将来構想：『聞き書きマップ』の開発と試験運用」、危機管理産業展 2013 危機管理セミナー：宇宙インフラ整備がもたらす安全保障・防犯防災の強化、東京ビッグサイト、2013 年 10 月 3 日
- ・ 原田豊（科学警察研究所）、「児童虐待と『予防犯罪学』、虐待から子どもを守るプロジェクト第 2 回フォーラム、近畿大学、2013 年 10 月 19 日
- ・ 原田豊（科学警察研究所）、『『聞き書きマップ』による草の根 G 空間情報社会の創造』、東京大学 GCL プログラム レクチャーシリーズ、東京大学本郷キャンパス、2013 年 10 月 31 日

④ポスター発表（国内会議 2 件、国際会議 0 件）

- ・ 重根美香（明治大学/子ども安全まちづくりパートナーズ）：「防犯活動から安全まちづくりに向けた「防犯まちづくりのヒントとガイド」」こども環境学会、東海大学高輪キャンパス、2013 年 4 月 28 日
- ・ 原田豊・齊藤知範・山根由子（科学警察研究所）・細田耕一（(株) エクシード）・雨宮護（東京大学）、「野外調査記録作成支援ソフトウェア『聞き書きマップ』の改良版の開発」、CSIS

DAYS 2013、東京大学柏キャンパス、2013年11月22日

(8) 受賞等

- ・ 子ども安全まちづくりパートナーズ：「計画的な防犯まちづくりの支援システムの構築」
『第7回キッズデザイン賞』キッズデザイン協議会

(9) 特許出願

国内出願 (0件)

(10) その他特記事項

なし